

市民主体の地域づくり活動計画の評価の進め方

平成30年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：市民主体の地域づくり活動計画の評価手法および評価シートの開発
 研究代表者：総合政策学部 教授 吉野英岐（総合政策学部）
 研究メンバー：佐々木敬志（滝沢市役所地域づくり推進課）
 技術キーワード：市民主体、地域づくり活動計画、評価手法、評価シート

▼研究の概要（背景・目標）

滝沢市は、平成26年1月に「住民自治日本一の市」を掲げて市制移行し、「幸福感を育む環境づくり」を目指した第1次総合計画を策定した。そして市民が自ら課題を整理し、めざす地域の姿を考え、行動する計画として「地域別計画」（平成27年度～34年度）を作成した。本研究では、滝沢市が「地域別計画」の達成状況を、市民自らが検証できるような評価手法および評価シートの開発を目指した。そのため先進自治体で実施されてきた住民主体の地域づくりの事例を現地調査により検討するとともに、住民自身が評価しやすい簡易的な評価シートの案を作成した。

▼研究の内容（方法・経過）

滝沢市が2018年6月29日に開催した「滝沢市地域づくり研修会」で研究代表者が講演と地域別計画を振り返るワークショップを実施し、評価の課題を抽出した。次に、研究代表者は先進地域で実施されてきた住民主体の地域づくりの事例を現地調査により検討した。訪問した地域は①宮城県仙台市（2019年2月2日）、②京都府南丹市（同年2月28日）、③東京都日野市（同年3月8日）である。共同研究者は「地域別計画活動モデルシート」および「地域別計画事業実施シート」の内容から、十分に組み込まれていること、組み込みが少ない領域や背景などを考慮し、客観的評価基準と評価項目の作成を進めた。

▼先進地での取組と課題

①仙台市

事例集『協働のまちづくりの実践』（2018年3月）、方法解説として『協働のまちづくりの手引き』（同）を刊行。事例と協働の流れ（PDCAサイクル）を取り上げており、住民が活動を計画・実践・評価していくうえで十分に参考になる内容をもっている。



②東京都日野市

平成26～28年度にかけて、個々の自治会ではなく、8つの中学校区を単位とした区域に地域懇談会を設定し、アクションプランの作成を呼びかけ、住民の自主的な活動を支援した。新しいコミュニティづくりの3つの知恵として、「できることを持ち寄る」、「ゆるやかなつながり」、「地域の“個性”を楽しむ」を掲げ、「知る」→「考える」→「動き出す」→「続ける」という過程を提案している。



▼評価シート

評価シートの作成の具体的な内容は、市内のある地区をモデルにして、「地域別計画活動モデルシート【世代活動モデル】」および「地域別計画事業実施シート」に記載されている内容から地域ごとの状況を整理した。そのうえで、十分に組み込まれていること、組み込みが少ない領域や背景などを考慮し、客観的評価基準と評価項目の作成を進めた。今後は、滝沢市の地域活動の新しい担い手を確保し、多様な意見を取り入れて、自治会単位からより広域な11の地域を単位とした活動の活性化を図り、計画のPDCAサイクルが円滑に達成されるしくみづくりを行う必要がある。

地域別計画進捗確認表

基本方針1 地域住民が交流を回りながら、暮らしやすい活気あるコミュニティをつくらう

行動計画	課題との関係	上段:実施計画/下段:実績				達成率
		H31	H32	H33	H34	
▶ 1. 住民の自治意識を高め、地域活動への積極的な参加を呼びかけます。	地域活動①	検討する	実施する	実施する	実施する	50%
▶ 2. 多くの住民が参加しやすい行事を設けて、住民同士の交流が活発に行われるよう図ります。	地域活動①	検討・保留	できず	できた	できた	75%
▶ 3. いきいきクラブ(介護予防)など住民相互扶助を図る活動を推進します。	地域活動②	検討する	実施する	実施する		25%
▶ 4. 子ども会育成会やPTAなど子育てのための活動を支援します。	地域活動③	実施する	実施する	実施する	実施する	100%
▶ 5. 子育て講習会などを開催し、子育てを支援します。						0%
▶ 6. スクールガード・安全パトロールや高齢者の見守り活動を積極的にに行い、安心安全な地域づくりを推進します。						0%
▶ 7. 一帯帯一灯運動を展開し、夜間の暗い空間を少なくします。						0%
▶ 8. 地域情報を伝達するため、住民に観しまれる広報を発行します。						0%

<謝辞> 調査実施にあたり、ご協力いただいた関係機関に感謝申し上げます